

4 令和7年度 学校評価報告書（目標設定）

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育課程 学習指導	①基礎学力の定着と大学進学を視野に入れた授業を実践する。 ②主体的、自主的に学習に取り組む態度の醸成、伸長をめざした授業改善を図る。	①電子黒板の活用により視覚的な効果をうまく使い効果的な授業を実践する。 ②学習コンテンツの活用により、1年から3年まで自律的学習を図る	①電子黒板の活用実践事例の報告・研修会をする。 ②活用法の研修会の実施、宿題の配信、面接動画、小論文対策動画を行い授業改善につなげる。	①生徒面談からの要望、授業評価アンケートの内容。 ②生徒が学習コンテンツをしっかりと利用できているか
2	生徒指導・支援	①SCやSSWと連携した能動的・組織的な生徒支援体制及び教育相談体制を確立するとともに、教員の意識改革を図り多様性を認識し認め合う雰囲気を醸成する。 ②部活動の更なる活性化を図り、挨拶や素直な心を基盤とした人間関係形成力や自己表現力を育成する。	①自身が抱える悩みや課題についてうまく表現できない生徒に対するアプローチの方法について検討し実践する。 ②人間関係形成力や豊かな心を育むため、更なる部活動の活性化を図る。	①サポートドックの実施時期やプッシュ型面談の対象をSCやSSWと連携しながら精査し、有効性を高める。 ②部活動を取りまく制度を整備し、部活動の加入率(70%)を維持する。	①悩みや課題を抱える生徒を一人でも多く抽出し、SCやSSWとの面談等、必要となる対応を取ることができたか。 ②部活動に主体的に取り組める環境を整え、加入率を維持できたか。
3	進路指導・支援	①生徒一人ひとりが自己理解を深め、将来を具体的に考える姿勢を育成する。 ②主体的に進路目標を設定し、達成に向けた取組みの実践へと繋がる探究活動の充実を図る。	①自己理解を深化させ、自己の将来について考え、進路目標に向けて、多様な探究活動等に主体的に取り組む姿勢を育てる。 ②生徒一人ひとりの進路目標をふまえて、希望する進路実現や社会参画を見通した探究活動が向上心を持って実践できる環境作りに努める。	①「総合的な探究の時間」の活用等による生徒の主体的な活動の充実に必要な情報を収集し、職員相互での共有を図り、生徒一人ひとりの将来の在り方を見通して、組織的な進路支援を行う。 ②進路実現や将来設計につながるよう、探究活動、分野別進路ガイダンス等の企画や面接指導などの早期の支援体制をよりに充実させる。	①新学習指導要領をふまえて情報収集し、共通理解を深め、スキルを向上させることにより、探究活動において自己効力感、集合的効力感をもてるよう成功体験につながる場、仲間と挑戦を共有できる場を支援することができたか。 ②探究活動に取り組み、生徒が自己の将来設計を実践する中で、自己肯定感を高め、自己理解を深め、仲間と協働する姿勢を持つことができたか。
4	地域等との協働	①地域社会との交流や連携・協働を通して、地域とのつながり・絆を強化し、地域の一人としての自覚を持つ「社会性豊かな生徒」の育成と「地域とともにある学校づくり」を推進する。	①地域社会との交流や連携・協働を通して、地域の一人として、つながり・絆を大切に思う心を育成する。 ①一層の情報発信や地域連携の充実を図る。	①地域との連携事業への積極的な参加を促進する。 ①HP等を活用し、効果的な学校の広報、情報発信を行う	①荏田高校の地域連携事業が地域から愛され、高い評価を受けることができたか。 ①荏田高校の良さを、地域へ発信することができたか。
5	学校管理 学校運営	①生徒と向き合う時間を確保するために、組織的な学校運営と校務の効率化を図る ②職員が学校運営上の課題を理解・共有するとともに、リスクマネジメントの意識を徹底することにより、安全・安心な学校づくりを推進する。	①若手職員とのコミュニケーション、ICT活用による業務効率化等における課題の改善をさらに推進する。 ②学校運営上の課題の共通認識、研修・掲示物による可視化、Teams活用等の工夫により、職員のリスクマネジメント意識の維持・向上を推進する。	①若手職員とのコミュニケーション、ICT活用による業務効率化等における課題の改善をさらに推進する。 ②学校運営上の課題の共通認識、研修・掲示物による可視化、Teams活用等の工夫により、職員のリスクマネジメント意識の維持・向上を進める。	①学校運営における職員相互の共通認識を図れたか。ICT活用の業務効率化等の環境整備を進められたか。 ②コロナ禍前後による学校運営業務の改善ができたか。 職員のリスクマネジメントの意識を促すことができたか。